

金星オービターからの大気リモートセンシング計画の現状

Remote sounding of meteorological processes in the Japanese Venus orbiter mission

今村 剛[1], はしもと じょーじ[2], 金星探査計画ワーキンググループ

Takeshi Imamura[1], George L. Hashimoto[2], Venus Exploration Working Group

[1] 宇宙研, [2] 東大・気候システム

[1] The Institute of Space and Astronautical Science, [2] CCSR, Univ. Tokyo

日本で進行中の金星オービター計画では、リモートセンシング機器としては気象観測に重点を置いた 5 台のカメラが搭載される。これらのカメラは、金星の下層大気を見通せる近赤外の窓を始め、紫外から中間赤外まで全 11 波長で異なる高度領域の雲や微量気体の分布を継続的に撮像し、分厚い金星大気圏のダイナミクスを立体的に診断する。電波掩蔽法による気温プロファイル観測は撮像観測と相補的である。これらの観測を有機的に組み合わせることによって、金星の大気大循環を駆動する様々な素過程の検出を目指す。講演では、観測計画、最近の計画変更に伴って検討されている新たな可能性、海外グループとの協力の見通しなどについて、ミッション提案時から変更のあった事項を中心に報告する。